

対立の構図

本編は、次の14項目からなる。

- ① 養母殺し容疑者の破滅的人生
- ② 入所者にバカと言われた介護職員
- ③ 旧統一教会の金^{かね}あつめ
- ④ 旧統一教会と政治家との関係の深さ
- ⑤ 故安倍晋三国葬に反対した人たち
- ⑥ 送迎バス内に置き去りにされた園児たち
- ⑦ 死刑判決を受けた政治犯ボーズマン
- ⑧ 「悪魔の詩」著者が刺された
- ⑨ 試験をボイコットしなかった中学2年生
- ⑩ 都の時短営業要請に従わなかった飲食店
- ⑪ マスクをしなかった人たち
- ⑫ 奨学金を返えさない人たち
- ⑬ ゴーカートが止まらずに観客にぶつかった
- ⑭ イギリス、トラス氏とスナク氏の党首選

・文中敬称略。
・文中の会話文には、筆者が推測するフィクションが含まれる。

・以下の【 】内は、新聞記事・週刊誌の引用あるいは要約・意識したもの。

① 養母殺し容疑者の破滅的人生

【毎日新聞朝刊 2022/7/21 社会】

養子縁組に必要な書類を偽造したとして高井凜（28）容疑者を逮捕。養母が死亡。養母に総額1億5000万円の生命保険がかけられて、受取人が高井容疑者になっていた。】

【週刊文春 2022/8月4日号 高槻女性殺人 1・5億 円保険金「養子」】

捜査関係者「直接の死因は溺死。何者かが両手首を結束バンドで縛り、顔を浴槽に沈めて殺害したとみられる」一年が経過した今年7月20日、高井凜は養子縁組の書類を偽造したとして、有印私文書偽造・同行使容疑で大府警に逮捕された。

二人はもともと保険外交員と顧客の関係。契約していた二つの保険のうち一つは、凜が外資系のプルデンシャル生命保険に勤めていたときに結んだ契約だった。

高井凜（旧姓・松田）は西宮市の名門・関西学院中等部に入学する。高等部のときアメフト部で輝かしい成績を残した。関西学院大卒業後、彼は外資系の有名コンサルディング会社に就職を果たす。IT部門に従事した。2年半後、プルデンシャルにヘッドハンティングされ転職、完全歩合制の実力主義の会社だった。都内の支社に配属されると、すぐに成果を出した。

プルデンシャルの社員の一人「契約にいくつものコンプライアンス違反が発覚した。顧客に保険内容を理解させないまま契約を結んでいたほか、見た目がさわやかで口もうまいから、独身女性に結婚をちらつかせて契約を取る、結婚詐欺やデート詐欺に近い行為もしていた」

【毎日新聞朝刊 2022/8/25 社会】

大阪養子偽装、義母死亡後、1億円相続。

大阪府高槻市の女性との養子縁組届けも偽造したとして有印私文書偽造・同行使の疑いで逮捕された無職の高井凜容疑者。相続の手続きに必要な死体検案書について凜容疑者が高槻署に自ら出向いて入手していた。】

【毎日新聞朝刊 2022/8/26 社会】

大阪・高槻、養母殺害疑いで高井凜容疑者を再逮捕。保険金受取人を無断変更か。SNSで「車買った」高級外車ランボルギーニの画像（自身がその脇に立つ）を掲載。住居は都心のタワーマンションだった。元同僚が「人だけは殺すな」と声をかけたとき、凜容疑者の顔から笑みが消え、「何で知ってるんですか？」

【毎日新聞夕刊 2022/8/26 社会】

高井容疑者、自宅にスマホ放置。居場所（大阪に来ていたことを）隠す工作か。】

【読売新聞朝刊 2022/8/29 社会】

高槻女性殺害の高井凜容疑者、5カ月前から計画か。昨年2月に同僚に「殺し屋、知らないか」、他の同僚に「100万円を貸してほしい」

2018年11月から外資系の生命保険会社で高給を稼いでいたが、顧客との契約トラブルを起こして20年6月に退職。同年秋には保険販売の資格を取り消された。これにより金に困るようになったとみられる。】

【毎日新聞朝刊 2022/9/3 社会】

大阪養母殺害の容疑者、拘留所内で死亡。府警は自殺を示唆する便箋を死亡の2日前に確認していた。】

・養母の不審死

中高年者が風呂で溺死すること事態は、珍しくないケースだが、事故や病気によるものではなく、状況から殺された可能性が当初からあった。

その約5カ月前に、その資産家の独身中年女性(54)が、養子をとった。将来を見据えて、たまたま出会った、すてきな男性(28)を気に入って籍に入れたようだ。しかし、男は保険外交員で、契約目当てで近づいてきた、口のうまい狡猾な青年だった。彼女は、保険契約以上の目的が男に芽生えてきたことには気づかなかった。

しばらくして彼女は不審死を遂げた。彼女には多額の保菌金が掛けられていたが、保険金の受取人は、実場からその養子の男に変更されていた。おそらく彼女はその変更を知らなかった。これでは、その男が真先に疑われる事件だった。犯行は計画的で巧妙ながらも、バレバレのずさんな手口だ。

・容疑者

彼は高学歴で、仕事をよくやっていた。スポーツマンで、人付き合いもよく、同僚たちの受けもよかったとみえる。会話する能力も高かったのだろう。

ただ、モラル意識の欠如がみられる。モラル・ハザー

ドという言葉どおりだ。損得を秤はかりにかけるが、善悪の判断をしないとある。

自分本位の身勝手さがあった。悪いとされる行為でも、自分の利益になることなら平気で実行してしまうところがある。狡猾な、禁断の手段でさえ、平気で選んでしまっている。たとえば、就職した外資系の大手生命保険会社で自分の営業成績を上げるために、顧客との約束以上の高額な契約書を作ったりしていた。すぐばれるようなことを平気でしていた。高額な報酬を稼ぎながら、結局、首になっっている。

そして金が入れば、身の程を知らない豪華な生活に溺れたりしている。金があるだけ使ってしまう。金が足りなくなれば、借金することを考える。職を失った後、同僚だった者に100万円を借りようとしたという証言もある。

それにしても、完全歩合制の会社に勤めるのは、働く者にとって、きびしい・きつい・ストレスフルだろう。アメとムチで走らされるから、つらい。カネのためにがんばらなければならないという変な使命感と重圧がのしかかる。

彼は恐れなかった。へなあに、成績を上げればいいんだろ、高額な契約を取ったことにすればいいんだろ

・アメフトでのダメージか

そうなった原因として、私の憶測をあえて言うくと、外傷性脳障害が浮かび上がる。脳の高次機能の一部の故障のために、自制が効かなかったのだろうと考える。彼は関西学院高等部でアメフト部に所属し、華々しく活躍した優秀な選手だった。しかし、脳震盪を起こしたとやらで、脳の精密検査を受けたのだろう。彼の友人によると、その結果、頭部の血管の一部が細いこと（これは後天性でなく先天性らしい）が分かり、関西学院大に進学したとき、アメフトを続けられなかった。ただし、高等部のコーチとしてアメフトにかかわった。アメフトでは、激しいぶつかり合いのために外傷性脳障害を負いやすい。その影響があったのだろう、と私はみる。

・結び

彼は、自主性をもって行動する、自分本位な性格だろう。自分の計略に過信し、慎重にことを進めながらも、失敗を恐れないから、実行力がある。自分の利益を優先し、他人のことなど、知ったことではない。現代では、こういう人材が求められたりするのかもしれない。

事件の約一年後、警察の捜査がようやく固まって、

大阪府警は、有印私文書偽造・同行使容疑で逮捕した。そして、殺人容疑での証拠が整ってきた。

動かぬ数々の証拠を突きつけられ、彼は、無罪を主張することなど無理と判断し（もうダメだ）とあきらめた。もうタワーマンションに住み、ランボルギーニを乗り回し、複数の女と付き合うことはもうできそうにない。留置場の中で人生を終える決意をした。15分ごとに見回ってくる看守を出し抜いて（寝たふりをして）、うまく実行した。

② 入所者にバカと言われた介護職員

【毎日新聞朝刊 2022/9/26 社会】

警視庁は、東京都北区浮間の特養老人ホームの入所者・山野辺さん（92）に暴行を加え、殺害したとして、東京都板橋区船渡の菊池隆容疑者（50）を殺人容疑で札幌市内で逮捕した。25日昼に札幌市内のマンション住民から「非常階段に不審者がいる」と110番があり、警察官が任意同行した。容疑者「北海道で自殺したかった」

容疑を認めて、15日午後10時〜16日午前1時に「バカと言われてかっとなった」

山野辺さんは7月に入所したばかりだった。長男が施設での生活について尋ねると「大丈夫よ」と笑顔を見せた。しばらくして話を続けると「早く家に帰りたいな」ともこぼしていた。】

「バカ!」といわれたら、誰でもムカツとするものだろう。特に、同僚や格下の相手に言われたら、あなたは言葉より先に手を出すこともあるかもしれない。それは暴言だから、暴行で報復することは道理に大きく反しないことであるけれど。

要介護者、障害者が入所する施設では、そんな事件が起きていることを報道で時々見聞きする。珍しくない事件なのだ。入所者の方に非があるかもしれないけれど、入所者は肉体的にも精神的にも、つらい立場にあることを、職員は思いやる必要がある。

この場合、相手は自分が介護すべき要介護者であり、口は達者であっても、体力の衰えた弱者だった。自分よりずっと年上の「年長者」だった。何を言われようと、怒ってはいけない立場だ。怒る必要もない。そんなことで怒ったら、身がもたない。敬老の精神にも反する。

このケースでは、それがきっかけに職員は激怒・激昂して、過激な暴行を加え、殺してしまった。個室内で

のこととはいえ、大きな物音や悲鳴が施設内に響いたと思われるが、他の人には事件とはまったく思われなかったらしい。ありふれたことなのだろうか。

そうなる前に、双方に不満や苛立ちがつのつていたかもしれない。特に、山野辺さんは7月に入所したばかりで、環境に慣れておらず、不自由さを感じていたとみえる。二人の相性が悪いのなら、担当を変えるなどの配慮を施設側がおこなえばよいことだろう。

結局、職員は取り返しが付かないことをしてしまった。そんな自分を嫌悪を感じるほどに後悔した――彼は自殺したくなった。彼自身、北海道に何か思い入れがあったのだろうか。〈自殺するなら、北海道だ〉

北の大地への逃避行を決意した。そこで旅費のために貯金を下して北海道へ向かった。警察は、事件後行方をくらました職員を「逃亡犯」として指名手配した。

ATMで金を下す彼の姿もカメラ映像で確認していた。事件の10日後、容疑者は札幌市にいた。おそらくそこが彼の出身地だったかもしれない。そこには思い出が詰まっていた。子どもの頃の記憶が次々によみがえってきた。〈子どものころ、ここにこんなマンションはなかった。草地だった。オレたちは野球をしたものだ……〉

マンションの非常階段のところで逡巡していたところを住民に通報された。自殺できず、生き恥をさらすことになった。死ぬよりはましだったかもしれない。

しかし、人生としては足を大きく踏み外した。入所者に、いかに罵られようと罵倒されようと、たわごととして聞き流す忍耐や寛容さを持つべきだった。相手に「バカ!」と言われたら、「バカですみませんね。バカというより、アホでんねん」ぐらいのことを言い返したい。演技力が要求される場所だ。介護の職場では、わがままで気難しい入所者ばかりで、心労が多く、賃金も安い傾向があるから、そんな悟ったような心境には、なかなかなりにくいのかもしれない。

北区浮間うきまという私の「第一の地元」で起きた事件だったから、注目してみた。「少年の私が浮間に住んでいたころは、介護施設など1棟もなかった。原っぱで野球をしたものだ。制限された人数での草野球だった。あの少年たちはどこに行ったのだろう……」

③ 旧統一教会の金かねあつめ

【毎日新聞夕刊 2022/7/14 社会】

世界平和統一家庭連合の田中富弘会長は11日記者会

見し、「過去に献金トラブルもあったが、2009年からコンプライアンスを徹底した。今は献金の強要はない」と説明したが、弁護団（全国靈感商法対策弁護士連絡会）によると、献金強要の相談は今も続いている。21年は47件、総額3億3153万円。21年に確定した民事裁判では、元信者の女性が献金の返還を求めた訴訟で、東京地裁が「献金の要求は不安や恐怖をおおる不当な方法だった」とし、勧誘した連合側に約470万円の返還を命じる判決を下した。」

【毎日新聞朝刊 2022/8/9 社会】

安倍氏銃撃事件、祖父が98年に死去した後も「亡くなった夫の」霊がさまよっている。お兄さんが献金しないと収まらないですよ」などと言われ、母親は叔父の職場すら押し掛け、金を無心した。」

【週刊文春 2022 8月11日号統一教会徹底解剖】

韓国ソウル北東部の加平に巨大な白亜の宮殿が聳え立つ。総工費は約300億円と言われる「天正宮博物館」、さらに隣接する土地に新たな宮殿「天苑宮」を建設している。総裁の韓鶴子氏は2017年の起工式で「地上天国を実現します」と宣言。彼女は教祖・文鮮明氏（享年92）の妻だ。文氏は16歳のとき天啓が下ったという。キリスト教長老派の信者だった少年は祈りに

熱中していると、イエスが現れ、地上で残した仕事を完遂するよう望んだという。夫妻の超豪華な暮らしの一端が、アメリカでの生活ぶりだ。ただし、そこで文氏は虚偽の所得申告をしたことで脱税の有罪判決を受けた。犯罪者の、日本への入国は基本的に許されない。

元信者でジャーナリストの多田文明氏「そもそも統一教会の教義は、エバ国の日本がアダム国の韓国に対し悔い改めなければいけないというもの。日本人信者には、韓国への植民地支配から、果ては豊臣秀吉の時代まで遡り、常に罪の意識を植え付けていた。そうした罪から救われるには摂理に応じた献金が必要、だという」

日本人信者が多額のお金を工面するため行^{おこな}ったのが霊感商法だった。「月100万円近い献金ノルマを課される信者もいた。多くの信者が霊感商法に手を染め、伝道（勧誘）した人からお金を集めた。時には、借金して献金をしなさいと言われることもあった。クレジットカードを何枚も作って最終的に破産する信者もいた」

石井謙一郎氏「元患者の声に耳を傾けると、世の中をよくしたいと願う真面目な人ばかり。教団はその善意を悪用して信者から献金を集め、正体を隠した勧誘や

霊感商法に邁進させてきた。その裏で数えきれない家族が涙を流している。一方で教団と教組一族は莫大な富を築いた。

〈統一教会、日本から4900億円送金リストを独占入手!〉と銘打った2011年9月8日号の記事で、統一教会側が文藝春秋の社に押しかけてきた。担当デスクと私が対応した。統一教会側8人が抗議し、テールを叩いて威嚇する者もいたが、記事に何ら譲る個所はなく、謝罪や訂正の要求には一切応じなかった」（周辺では）信者数十人による抗議デモが11月上旬まで続いた。

1999年9月、飯星景子さんの実父の飯星晃一氏が娘の説得に臨んだ。しかし「親がサタンに見えるというのはこういうことだったのか、とあらためて思ったりした」統一教会では信仰に反対する者は皆サタン、と教えられる。そして信仰を続けることが、反対する相手の救済になる、と信じ込む。「私は心の中で神に問うた。ここで親よりも神をとると言えば、家族が救われる」しかし飯星はキリスト教関係者や元信者の話を聞くとうと決めた。彼らとともに統一教会の教義やキリスト教の聖書を読み比べ（統一教会の教義に）多くのウソや矛盾を思い知る。そして最初の勉強会で一

緒だった女性たちについて「彼女たちは私をだますつもりなどなかっただろうし、むしろ本当に良い教えだと思っていたから、私を誘ったのだろう」

山崎浩子さんも家族たちの言葉を聞く耳を持つ姿勢があり、徐々に信仰の間違いを確信するに至り、1993年脱会した。彼女は「脱会すると恐ろしいことになる」と洗脳されていたから、おびえながらの脱会だった。」

【毎日新聞朝刊 2022/9/10 社会

旧統一教会幹部、実名で証言。献金ノルマは「年300億円。信者が検挙後も、体質は変わらなかった。」

100億円が韓国へ送金か。】

【毎日新聞朝刊 2022/9/17 社会

全国霊感商法対策弁護士連絡会は都内で集会を開き、文科省に旧統一教会の解散を要請する声明を採択した。韓国に施設を建設するためや、韓鶴子総裁が80歳となることなどに絡めて、信者から1家族あたり183万円を求められていることも報告された。】

【毎日新聞朝刊 2022/9/27 そこが聞きたい

「旧統一教会と韓国政界」釜山長神大教授・卓志一氏の話。

日本人女性信者の「結婚移民」は、旧統一教会の資料

によると、合同結婚式により韓国で暮らすようになった日本人信者は1万人余り、旧統一教会の一般的な教理では、第二次世界大戦を起こしたドイツ、日本、イタリアの枢軸国側は「サタンの勢力」であり、韓国は日本によって苦痛を受けた被害者。だから日本が韓国に補償しないといけないとみなす。献金や霊感商法などで得た多額の金が日本から韓国に送られたり、日本人女性信者の結婚移民が韓国に多くいるのは、その教理で読み解くことができる。】

【毎日新聞朝刊 2022/9/29 総合・社会

旧統一教会・元信者が語る霊感商法。男性は19歳の時、勧誘された。信者となつてから、彼は資金集めに奔走させられた日々を振り返った。1訪問販売で客との信頼関係を築き、霊感商法へ誘導する。十数人の信者とともにマイクロバスに乗せられ、車中泊しながら、全国を回った。マイクロバスは、あたかも「現代の奴隷船」だった（過酷な生活が強いられた、との意味）。それでも『理想の国』『地上天国』に行けると思っていた。民家を戸別訪問し、霊感商法へと誘導する。相手の悩みを言い当てるなどして「不幸の原因は先祖の因縁」などと言って信じ込ませ、壺を約100万円ですり付ける。】

【毎日新聞夕刊 2022/9/29 社会】

旧統一教会の宗教2世、親の多額献金で困窮。親が子のバイト代を無断没収するケースがあった。

キリスト教系「エホバの証人」の2世も当事者として救済する制度を訴えた。

【毎日新聞夕刊 2022/10/5 水説】

紀藤正樹弁護士「旧統一教会が国内だけでなく、信者を韓国に行かせて韓国の教会に直接献金させている」菅野志桜里弁護士「違法な献金搾取を繰り返すカルト的団体の根っこを絶つ必要がある」】

一般的に、その団体を「旧統一教会」と呼びならわしているが、現在活動している統一教会系の宗教団体は、名前を変えただけで、教義・教理やその活動は、実質的に同じものであるから、「旧」という別物をイメージさせる字を付記するのは適切でない。私はここでは「統一教会系」という表記を使いたい。そして、統一教会系は、宗教団体の体をなしていないから、詐欺的悪徳集団とみなすべきだろう。こう言ってしまうと、彼らは宗教的迫害だと反論しそうだが……。

統一教会系は「金を集めている」という表現がぴつたりだ。日本の支部や関連団体、そして信者たちが集

めた金は、韓国に送られていた。この事実は最初、週刊誌でセンセーショナルに報じられた。それを知ったら、日本人たちが怒るに決まっている。

宗教界では、信者たちに献金（賽銭、喜捨、寄進、奉納、初穂料、奉仕などを含む）させることが必要なことだが、旧統一教会の場合、特に過激であることがわかってきた。入信・入会時においても、多額の献金及要求されている。信者が破産するまで、追い込む。信者を脅したりすかしたりして、献金させる。一度献金に成功すると、さらにまた、新たな理由で献金を迫っている。一度多額の献金をした者は、「こいつはもつと出せるだろう」と、みなされてしまう。

絶大なる神の力を借りていることが、この団体の巧みなどところだ。「トラの威を借るキツネ」に徹しているところがある。心理的な人間の弱さや「思い込み」を巧みに突く。神の力だけでなく、政治的な力も、大いに利用する。行政対応で、政治権力者の一声は絶大なものがある。芸能界などで、好感度の高い有名な人物の「顔」を利用することもある。広告塔として利用価値が高い。

本部に「上納金」を送金するのは、統一教会系の支部として責務かもしれないが、年に100億円も送金

するのは、やりすぎだろう。韓国の信者たちからも、搾り取っているのだろうか。日本の信者からは、韓国の信者の10倍搾り取っているという週刊誌記事もある。

1. 信者の財産を吸い上げる

財産には不動産・有価証券などがあるが、物を譲渡する形ではまずいから、やはり、現金払いである。献金の形で納めさせる。

信者に資産があれば、それを売り払うかして現金化して、それを受け取る。統一教会系としては、韓国の通貨・ウォンで受け取れば、一番いいのだろう。

寄進させるために、その名目として韓国にある本部の施設建設を口実にする。単に口実でなく、実際に豪華な施設群を次々に建てている。豪華な施設が、新たな信者を呼び込むための装置にもなるわけだ。ただし、週刊誌情報などでは、現地では豪華な施設のわりに、人気がなく閑散としているらしい。

さらにエスカレートしたと思えることは、日韓海底トンネルの建設計画だ。これは、途方もないプロジェクトだが、推薦名簿や顧問として自民党の大物政治家の名がずらりと並び、旗振り役に一役買っている。ドーバー海峡トンネルなど足元にも及ばないほどの、と

んでもないプロジェクトだから、その資金をいくら集めてもきりがないとある。総工費10兆円という数値が出ているが、それで足りるのかは怪しい。だいたい建設工事費は、新幹線整備のように、当初見積りより数倍に膨れ上がるのが通例だろう。たとえ完成しても、維持管理にも費用が掛かるから、実用性・採算性に大きな疑問符が付く。

統一教会系は資金を集めるためのアドバルーンとしてこれを利用している。信者たちとその費用の一部を出させている。それが統一教会の教祖・文鮮明の夢だったという。確かに、夢のようなプロジェクトだ。両国の国家的な大プロジェクトに押し上げてもしなければ、実現はどうてい無理だろうが、その政治家たちの名を見て、「いつか実現するかもしれない。その一助になれば……」と、多くの人が惑わされるのだろう。現実的には、見せかけのな、試掘レベルの工事をするが関の山だ。それでも、プロジェクトを着々と進めているという姿勢を示すことになる。

2. 信者に物やサービスを買わせる

これらは他の宗派でも、多かれ少なかれ、やっていることだが、統一教会の場合、ほとんど「金がすべて」といっていい。宗教界には、信者たちから金を得るシ

STEMがあり、その名目として、献金・賽銭・寄進・喜捨・奉納など、いろいろ呼び方がある。統一教会の場合、主に献金だろう。その他、考えられることを列挙する――

- ・ 物品販売の代金。その物品として、経典、仏具に相当するもの、「聖なるもの」「霊験あらたかなもの」とされる品が含まれる。原価の何倍もの高値で売りつける。中でも、統一教会独特の、豪華な書籍「聖本」が知られている。

霊感商法といわれている。売りつけるために、「祖先の霊がたたっている」などと脅す。「不幸にならないために聖なるものが必要だ」と屁理屈をこねる。

- ・ 守護神、神の使いたる人物、神に近い人物に献上するものとして、お金を出すように仕向ける。お金を取り立てたり請求したりする形ではなく、あくまでも自主的にお金を出させる。

- ・ 入会金・参加費・会費の名目での金をとる

統一教会の名物の合同結婚式では、特に、結婚したい男からがっちりと金をとっていたとされる。

- ・ 祭祀などを執り行う際の礼金・料金の類をとる
- ・ 組織が認定する位・資格（多くは呼び名だけ）を

授与する際の礼金をとる

3. 信者に布教活動させる

信者に奉仕として布教活動を担わせるのは、やはり他の宗派でも「よくあること」だろう。信者の親族・知人に入信を勧める。布教の輪を広げる一番の近道だろう。特に、信者が子ども連れで教会や集会に連れにくることは、子どもを感化させる一番の近道だ。

4. 信者を働かせて、物品を売りさばけ

信者たちを研修、あるいは修行のためと称して、これをノルマとして、競わせてやらせていた実態がある。信者たちは、詐欺的商法の研修を一心にやっていたことになる。人をだますテクニクが磨かれる。

若い信者たちをまとめて地方に連れてゆき、素朴な住民たちに「聖なる物」を売りつけて回っていた例が報告されている。

5. 日本の信者たちに韓国に行かせ、直接本部に献金させる

信者たちの多くは韓国に行っている。韓国に本部があり、引き寄せられるように「地上の樂園」を訪れる。本部に献金させれば、日本の支部が金を集めて本部に送金する手間が省け、何よりも銀行間の記録が残らない。

④ 旧統一教会と政治家との関係の深さ

【毎日新聞朝刊 2022/7/30 社会】

文化庁は、旧統一教会の改名について申請に拒否していたが、一転受理した。下村博文氏に異例の事前報告。】

【毎日新聞朝刊 2022/8/5 総合】

旧統一教会の名称変更で、下村氏「責任を感じる。】

【毎日新聞朝刊 2022/9/11 社会】

発足した第2次岸田改造内閣、旧統一教会や関連団体との関係を認めていた閣僚は軒並み交代となった。国家公安委員長、二之湯智氏、岸信夫防衛相、環境省・山口壮氏、文部科学相・野田聖子氏、科学技術担当相・小林篤之氏。】

【毎日新聞夕刊 2022/9/8 一面、総合】

安倍氏の差配が（候補者の）当選の鍵になった。安倍氏は見返りに動画に出演した？

旧統一教会は、安倍家3代と「反共」の絆をもつ。安倍晋三氏に最接近。

（前回の参院選で当選した）宮島喜文氏は安倍氏に2回面会し、安倍氏から「前回のようにはいかない」と言われ、公認を辞退した。今回の参院選では宮島氏の

代わりに、第1次安倍政権で首相秘書官を務めた井上氏に7万票が上積みされた。】

【毎日新聞朝刊 2022/9/17 総合】

公安調査庁が05、06年の報告書で、旧統一教会を「特異集団」と記していたが、第1次安倍内閣の時に発行された07版では消えた。】

【毎日新聞朝刊 2022/9/17 総合】

自民党議員の旧統一教会との関係調査で、修正続々。

自民苦慮、「キリがない。】

【毎日新聞朝刊 2022/9/21 総合】

旧統一教会調査、選挙支援を巡り、自民党は、（支援を受けたのに）9人の名を公表しなかった。】

旧統一教会が政治に関わりを持つことは、目の付け所が良い、というべきだろう。政治力を利用し、自分たちの立場をよくしようとする。それは宗教団体だけのことでなく、多くの団体や組織において一般的に行われていることだ。そんな組織票がものを言う。選挙では、候補者がそれらを取りまとめられるかが、当落にかかわってくる。団体を後ろ盾にできれば、心強い。そんな団体は、政治に対する「圧力団体」として存在できるから、政局を左右し、自分たちに有利な政策を

執ってもらえるものだ。

旧統一教会が政治に深く入り込んだ事実がある。

旧統一教会は、各地でイベントや記念行事、集会、あるいは祈願祭（例えば震災復興のため、と称する）をたびたび開催し、人集めに熱心なことに特徴がある。人々を動員することに長けている。その際、政治家のあいさつを入れたり電報の形でメッセージを読み上げたりして、互いに盛り上げている。

政治家にとって最も重要なのは、選挙で当選することだ。当選するための票集めや、選挙運動の協力を旧統一教会に求める。快くやってもらえることになってきた。旧統一教会の組織的な票が動けば、当選が期待できることになる。

政治家は、そのお返しに、政治力を用いる。各種の優遇措置だ。旧統一教会が何人かの議員をバックアップして当選させたことの、自民党側の「返礼」だろう。「持ちつ持たれつ」の関係があるわけだ。

しかし、それらが世間に明らかにになり、世論が批判的になったから。風向きが変わった。今般、安倍晋三銃撃事件をきっかけに、政治家たちは、旧統一協会との腐れ縁を切ることが求められる。

旧統一教会が、与党・自民党によって政治的に有利

に取り図^はられていた一端が見えてきた。行政において、旧統一教会の思い通りに事が運んだことが明らかになった。いくつかの要点を列挙してみよう。

1. 名称変更が認可された

悪名が高まった統一教会が、「名称を変更したい」と言い出したのは、当然のことだろう。悪名がついたままでは、高額な寄付金集めや、霊感商品売りつけなどの活動に差し支えが生じるからだ。そんな場合、名称変更するのが常套手段だ。統一教会は宗教学人だから、企業とは異なり、かつてに変えられなかったのだろう。文化庁に申請して認可を受けなければならなかった。宗教学人の場合、変更理由が問われるらしく、簡単ではないようだ。それが長年保留されていた。

旧統一教会の場合、行政がなかなかその認可をしなかったが、2015年に下村博文氏がその方針を一変させた。彼は隠然たる政治力で、担当部署に圧力をかけたとされる。そして旧統一教会は、世界平和統一家庭連合に名称変更できた。宗教団体らしくない名称になっている。「統一」の文字が入っていることに、旧名にこだわりがあるようだ。

2. 公安リストから「特異集団」のレッテルが外された

公安調査庁が05、06年の報告書で、旧統一教会を「特異集団」と記していたことに、注目したい。公安当局が特異集団としてマークすべき集団だったことになる。反社会的な活動をしている、あるいはその恐れがあるということだろう。そんな「宗教団体」は、解散命令の対象になる。政府が裁判所に解散命令の発出を要請することができる。

その後の第一次安倍内閣の時に発行された07版では消えた。旧統一教会が「特異集団」から脱却したわけではなく、実態は変わらなかったのに……。これで実質的に解散命令の対象から外されたことになった。

これは「政治的に動かした」効果だろう。どこか上のほうから「旧統一教会を特異集団とみなすのは、やめてくれ！」などと声がかかったのだと解釈するべきだろう。

3. 安倍氏が差配した

安倍氏の差配が（候補者の）当選の鍵になったとする記事が興味深い。旧統一教会の組織票「7万票」をどの候補者に振り向けるが、安倍氏が差配したという。前回の参院選では、その票が宮島喜文氏へ行き、今回は、安倍氏の秘書だった井上氏へ行くように安倍氏が差配した。安倍氏は宮島氏に「前回のようにはいかな

い」と申し渡した。つまり、7万票が上積みされないことを伝えた。宮島氏が当選する見込みが立たなくなかったから、彼は党の公認を辞退し、立候補しなかったというのだ。

「閣僚から、旧統一協会関係者を締め出す」

今般の内閣改造は、岸田文雄首相が、旧統一教会との関わりが明らかになった閣僚たちを除外するために行ったわけだろう。閣僚たちだけでも旧統一教会との関わりのない者にしたいという、岸田首相の英断とも言える処置だろう。政教分離の原則にもかなうことだ。悪名が高くなった旧統一教会を自民党から排除するという政治姿勢が見て取れる。潔癖性を求めたものだろう。

発足した第2次岸田改造内閣の顔ぶれは、旧統一教会や関連団体との関係を認めていた閣僚は「軒並み交代」となったとされるが、唯一の例外が、山際大志郎・経済再生担当相だ。岸田首相も、当初交代させようとしたが、党内から圧力がかかり、留任となったとされる。

その後、それが内閣にとって災いとなり、山際氏の場合、自己申告以上のことが次々にばれて、関係の深

さが際立っている。それが野党から追及される火種になった。自己申告はウソばかりという実態が見えてくる。統一教会との関係が深くても、それが過去のこととするなら、良しとしたところだが、ウソばかりという不誠実さは、大臣としての資質が問われることになる。

その他、関係の深い人物として、萩生田光一氏の名が挙がる。彼は政調会長として党の要職にある。

〔議員たちの自己点検〕

岸田首相主導で、国会議員たちの旧統一協会との関わり具合を調査した。各自が「点検する」というやり方だ。自己点検では、正直に回答したものかもしれないし、自分に不都合な点を隠した内容だったかもしれない。自分の裁量で報告するから、そんな調査方法では、全容が明らかになるとは思えない。それでも、その結果が公表され、かなりな関係が明らかになった。その汚染度はかなり高いものだったわけだ。大半の議員が何らかの関係を持っていた。

細田博之参議院議長の場合、実質的な自民党の議員だが、議長の職務上、名目は自民党から離れており、点検の対象になっていなかった。点検の対象から漏れているとの批判があり、細田氏は自身のかかわりを紙

一枚にして提出した。しかし、あまりにも軽々しい「紙切れ一枚」だったから、反発を買った。点検項目を満たしていなかった。細田氏は、関係を明らかにすることを渋った、と受け取れる。週刊誌報道では、渋るだけのことではあった。彼は2度目の報告書を出さなければならなかった。こんどは、紙切れ2枚になった。

⑤ 故安倍晋三国葬に反対した人たち

【毎日新聞朝刊 2022/8/1 総合】

共同通信世論調査で、安倍氏国葬反対53%（どちらかと言えば反対と反対を合わせた数値）、賛成派は45.1%

【毎日新聞朝刊 2022/9/20 総合】

安倍氏の国葬、理解広がらず。17〜18日に実施の全国世論調査では賛成27%、反対62%。

【毎日新聞朝刊 2022/9/27 クローズアップ】
国葬に逆風、政権誤算。旧統一教会問題で一変、説明なき税金2.5億円。

【毎日新聞夕刊 2022/9/27 社会】

国葬、権力の怖さ。1926年に制定された「国葬令」は国家に偉勲のある者に対し、天皇の特別な意向とし

て国葬をすると定めていた。

1943年6月5日に元連合艦隊司令長官の山本五十六の国葬が営まれた。小畑哲雄さん（95）は、国葬の前後、ラジオでは軍が「予科練に志願せよ」と学生向けに呼び掛けていた。志願しなかった小畑さんを含め生徒約500人が学校の剣道場に集められ「山本元帥に続け」「志願せんか」と床を踏み鳴らしながら怒る教師の姿が今も記憶に残る。

国葬令は1947年に失効したが、1967年10月31日に吉田茂元首相の国葬が日本武道館で実施された。】

【毎日新聞朝刊 2022/9/28 社会

英での取材では、英女王の国葬は英国国教会による宗教的な荘厳さがあった。厳肅さが際立った。一方、安倍元首相の国葬は無宗教形式で行われた。和やかな雰囲気も感じられた。】

【毎日新聞夕刊 2022/9/28 近事片々

国葬賛成派と反対派の間で飛び交う怒号、制止する機動隊。安倍政治が掲げた美しい国の結末が対立と分断。】

【読売新聞朝刊 2022/10/14 国際

安倍氏国葬費は12億円台と政府報告へ。

会場設営費や警備費、海外要人の接遇費など9月の見積もりでは総額16億6000万円だった。】

・安倍晋三の国葬

故安倍晋三の国葬が9月27日、武道館が行われた。その国葬の挙行に賛成派と反対派が対立し、もめたことが興味深い。私は中立派とも言うべき立場だ。葬儀では、故人に弔意を表す。冥福を祈り、しんみり執り行うのが礼儀だろう。それに反対するのは、「無礼」と言わなくてはならない。たとえ個人に恨みや嫌悪があったとしても（嫌いな人物だったにしても）、葬儀にはウソでもお悔やみを言うべきだろう。デモをしても反対意見を押し通そうとすることには、疑問を持つ。デモをするなら、もつとしめやかにデモをしたらどうか。

安倍氏は、近年の政治家の中では、良かれ悪しかれ、大きい存在だった。その首相任期が最長だったこと、その内閣支持率が高かったこと（他の首相経験者と比べて）ことが、褒められる。積極的に経済政策と向き合ったこと、外交の面でも、各国の首脳たちと友好関係を築こうとした姿勢を見せた。首相を退任しても、その政治力を保っていた。凶弾に倒れたことも、国葬

にする理由の一つになるだろう。その死を惜しむ人が多くいた。遺骨が墓に入る前に弔意や敬意を表したい大勢の人のために意味があることだろう。実質的に最高指導者だった人物について国葬として大々的にやることには、象徴的な人の喪儀よりも意味がありそうだ。

国葬で、各国の要人が多く参列することになるから、弔問外交の機会が生じることのメリットがあるだろう。対面しての会談は、貴重だろう。

ちなみに、2020年10月17日、故中曾根康弘の場合は内閣・自由民主党合同葬儀だった。さらに、それとは別に地元で、群馬県民・高崎市民合同葬も行われたという。故安倍氏の場合、故中曾根康弘に準ずる喪儀を執り行えば、文句が出なかつたと思われる。

・反対の声が高まつた

国葬の日が近づくにつれ、反対派の声が強くなったとみえる。事前に実施された全国世論調査では賛成27%、反対62%というから、反対派が大きく上回るという異常事態だった。政府はそれを押し切つて、葬儀を強行する形になった。

最近の葬儀は質素になってきた傾向があり、大々的に葬儀を行う時代ではなくなつた。安倍氏の場合、実質的な家族・縁者による葬儀が済んでいたから、また

葬儀を行うことに、煩わしさを感じたかもしれない。

葬儀は宗教的な儀式でもある。宗派によつてその形式や作法は異なれども、共通的な方法で国葬を執り行つたのだから、宗教色はかぎりなく薄れていたとみる。

それにしても、葬儀に反対を叫び、デモ行進をするなど、故人に対して冒瀆ぼうとくにも思えることだ。盛大な葬儀にやつかむ気分があるのだろうかとおどろかしてしまふ。

反対派の言い分の一つとして、費用が掛かりすぎるというものだ。しかし、葬儀の費用がいくらかかるか、などとケチくさいことを私は言いたくない。むしろ政府が葬儀に金を使うことは、経済効果があるかもしれない。それは、費用として計上されない分や、全容が明らかにされない警備費用、あるいは警備費として計上する必要のない者が動員された分を加えても、20億にもならないだろうから、年間100兆円にも上る国の予算と比べれば、それは微々たるものでしかない。

・国葬の法的根拠がない

安倍晋三氏の国葬を決めたのは、岸田内閣であり、閣議決定だった。

国を挙げての大々的な葬儀を、つまり国家的祭礼を閣議で決めていいのかという異論がある。これが国会軽視とする主張につながる。確かに、国葬には法的な

根拠がない。1947年に戦前からある国葬令は、日本国権法の発行とともに廃止された。

手続き上の不備のまま推し進めたからいけない。結果的には、事前説明と法的な根拠は必要だった。臨時国会を召集してでも、国葬令に順ずる法案を作り、早々に説明を打ち切って与党による多数決で押し切る形でもよかった。

1967年には吉田茂の国葬が行われたが、これも法的におかしかった、つまり違法ということになる。

法的な根拠が怪しいためか、政府は国葬といわず「国葬儀」と言葉を使い換えている。式場になった武道館の正面には大々的な「故安倍晋三国葬儀場」の看板が掲げられていた。従来の国葬とは異なるのだ、国葬ではないから、違法でも何でもない、言いたいらしい。

吉田茂の前に国葬が執り行われた人物として、東郷平八郎、西園寺公望、そして山本五十六の名が上がる。

軍国主義を推し進めたそうそうたる人物たちだ。国葬が国威発揚の手段に用いられたとされる。いささか右翼的な安倍晋三氏だったから、その系列に並ぶのは合っているのかもしれない。

⑥ 送迎バス内に置き去りにされた園児たち

【毎日新聞朝刊 2022/9/6 社会】

静岡牧之原、通園バス内、3歳児死亡、5時間放置か、国は都道府県などに対し、バス送迎時の人員確認などの徹底を求める通知を出した。運転手以外に職員が同乗することが望ましいとした。】

【毎日新聞朝刊 2022/9/7 社会】

静岡熱中症死、バスの降車を未確認か。死亡の園児を「登園」扱いしていたが、降車を確認していない。】

【毎日新聞朝刊 2022/9/10 社会】

通園バス、施設点検へ、首相指示、来月に再発防止策とチェック体制や欠確認の方法を調べる。

同園によると、安全管理マニュアルでは園児の降車確認は同乗する補助員の役割とされている。

事件があった5日、バスが園につくと、補助員の70代女性是最年少の2歳児に付き添って下車。他の園時には自分で降りるよう呼びかけ、そのまま園内に入った。二人とも車内点検は相手の仕事と考え実施しなかった。】

【毎日新聞朝刊 2022/9/14 神奈川】

送迎バス放置死を受け、クラクションで助けを呼ぼう

と埼玉で幼稚園児（5歳）が訓練。」

【毎日新聞朝刊 2022/9/14 社会】

静岡県バス熱中症死、（運転していた）増田氏が園児らをバスから下した後、車内の掃き掃除とアルコール消毒が、ともに運転手の日課となっていたが、実施していなかった。」

【毎日新聞朝刊 2022/9/23 社会】

静岡県が保育バスを調査、8割の施設で二重点検している。ヒヤリハットが43件、放置が3件あった。」

【毎日新聞夕刊 2022/9/24 憂楽帳】

送迎バスに置き去りにされた3歳の女児死亡の事件で、タイ人の知人「タイでも同じことで続いている」タイで2014〜20年車中で子供が亡くなるケースが6件あった。園に到着後も窓を開けておくよう定められているが、守られていないことも多い。持っていた「バス教育」の絵本にはクラクションを鳴らす、毎日同じ友達に隣に座り一緒に行動することを伝える内容だ。」

【毎日新聞夕刊 2022/9/26 社会】

去年7月、福岡・中間市で5歳の男の子が送迎バスの車内に取り残されて熱中症で死亡した事件の地裁初公判、泣いていた園児をあやすのに気をとられ、1〜5歳児7人の降車確認をしなかった。6人を下ろしてド

アを施錠。」

【神奈川新聞 2022/9/30 一面】

幼児施設の送迎バスに安全装置義務化へ。安全装置は、運転手がエンジン停止後、車内後部のボタンを押す、押さないと警報音が鳴るものや、車内にいる園児を検知して警報音を鳴らすものなど複数のタイプがある。

政府は、全施設に財政支援をする方針。また、人為的ミスを防ぐための安全管理マニュアルを10月中に作成する。」

【毎日新聞 2022/10/5 神奈川】

相模原市が置き去り防止で実証実験。送迎バスにワイヤレスTVドアホンを付ける。車内の園児が助けを求めらる。」

・後を絶たない事件

去年の7月、福岡・中間市で5歳の男の子が送迎バスの車内に取り残されて熱中症で死亡した事件があったのに、また今年9月、静岡牧之原で、バスに取り残されての死亡事故が起きたことで、岸田首相も対応に乗り出すという「国家レベル」の大問題になった。両者の状況が、そっくりなことに驚く。

死亡に至らないまでも、園児をバスに残していた事

例、ヒヤリハットが、静岡県の調査だけでも、数多くあることがわかった。

もちろん、園児の送迎バスだけでなく、一般の乗用車でも、親が運転席を長時間離れていたことで、中にいた子供が死ぬケースがかなり以前から報道されている。今年も、神奈川県厚木市で幼い姉弟が亡くなった。

このケースでは、母親が2時間ほど車から離れていた時に、事件になった。これはまさに「置き去り」行為だ。その間、彼女は何をしていたのか、が問われる。

仕事をしていたのだろうけど。ドアがロックされた車から、例えば、いきなり車が水没したときに緊急脱出しようにも、大人でさえ脱出は困難だ。ましてや……。

韓国でも、タイでも、同じ事情でその事故が起きていくという情報が寄せられており、国際レベルの問題になっている。赤道に近い、熱い国では、さらに深刻かもしれない。彼らの方が既に具体的対策をとっていると伝えられる。

春・夏るとき直射日光の下に車を駐車されると、たちまち室内が高温になることは、だれでも経験し、わかっているはずだ。運転者がクルマから出るとき、ドアにロックをかけることは、防犯上必要であり、習慣的にやっていることだが、その中に子どもを置いては

虐待に等しい。火に炙っているようなものだろう。苦しくなっても彼らは脱出できない。ドアを開けることも、窓を開けることもできない。窓を閉め切っていれば、30分もたたないうちに熱中症になって、意識さえ失ってしまうだろう。

秋・冬なら、直射日光が弱くなるから、命の危険性は低くなる。それでも、長時間置き去りにするのは、ダメだろう。車の中に閉じ込めることは、檻おろちの中に監禁しているのと同じことだ。

・いくつかの原因

その園児は、欠席という連絡もなく、バスの乗車時に登園扱いされていたのに、園の中では、その姿が見えないことに疑問を抱いた保母さんや職員は一人もいなかったことが、園側のルーズなところだ。

専任の運転手がないのなら、高齢の理事長自身が、にわか運転手になってはダメである。バス会社に掛け合うなりして、運転手を手配し、確保するのが、経営者としての理事の仕事だろう。理事長失格だ。彼はこの事件を起こして、すぐ理事長をやめたけれど。

このバスの運用では、運転手と補助員の2人体制で園児たちの降車確認をすることになっていたが、最終的な確認を互いにもう一人の者に任せて、2人とも確

認をしていなかったことで事件になった。他人に任せないで、自分が行うべきだった。どちらが確認するかという分担でなく、どちらも確認するべきことだろう。

補助員が残りの園児たちに「降りなさい」と声をかけたのに、どうして一人がバスを下りなかったかを考えると、園児は基本的に「言うことをきかない人」であることを再認識させられる。そんなアマノジャク的な子がいるだろうし、バスの中で眠ってしまう子どももいるから、声掛けだけではダメなわけだろう。全員が下りたつもりでも、一人二人が隠れているかもしれないので、もう一度車内を見て回る必要があった。

去年、事件が起きたときに、政府は、バスの送迎で確認の徹底を通過していたが、そんな人間の目に頼るような、職員任せの確認方法では万全ではないのだ。通達で「全員の乗り降りを確認しなさい」と言うだけではダメだったわけだ。政府は事故を防ぐ実効性のある策を練って、具体的な指示をしなければならなかった。施設側の職員による確認の徹底を求めたはずなのに、ぜんぜん効果がなかったことになる。そんな通達を出すだけの再発防止策ではダメということだ。もつと考えて、実効性のある対策方法を示してほしかった。

・今後の対策

今回の事故をきっかけに多くの対策が示されている。政府もやつと本腰を入れるようだ。私も考えながら、有効な対策と思われるものを列挙しよう。

＋子どもが乗っているかどうか、外からでもわかるように、透明な窓ガラスにする。静岡牧之原のこども園バスのように、窓ガラスに色を塗って、中を隠すのはダメである。

＋バスを直射日光の下に駐車しない。車庫の中や、サンルーフなどの下に置きたい

＋バスのドアを常時開けておく。これは、かなり有効な方法だろう。(車にはロックをするもの)と
いう常識を打ち破る発想がいい。一カ所の窓を開けておくだけでもいいかもしれない。つまり園児の脱出手段を確保しておく。イグニッション・キーを抜いておけば、バスの盗難の心配はないだろう。つまり、駐車中、園児が内側から簡単にドアを開けられるものであればいい。「チャイルドプルーフ」などという子どもを閉じ込める装置は、送迎バスにおいてはもつてのほかである。

＋エンジンを切った後、運転手が最後部座席付近に設置のボタンを押す。一定時間以内に押さないと、ブザーが鳴り響く。つまり、最後部座席へ行つて、

見回ったという証になる。

十 取り残された園児に非常ボタンを押させる。ハンドルのクラクションでもいい。これは日ごろ、園児に教え、訓練しておく必要がある。非常ボタンでなくても、ロックされたドアを解除するボタンでいい。それが有効なのは、車が駐車されていた時だけという条件が付く。

十 バスの中に監視カメラを置き、園内で見えるように、モニター画面に映し出す。人が常時、モニターを見ているわけにもいかないのに、画像処理のAIに学習させ、車内に園児の存在を認識したら、警報を鳴らすなり、緊急メールなどを発信するなどの機能を持たせる。

十 映像の代わりに、車内の物音を検知する装置でもいいだろう。

十 バスの各座席に重力センサーを取り付け、降車時に全員の子どもが「そこに座っていない」ことをチェックする。一人でも座っていたら赤ランプを灯す。これは近頃の乗用車に付いているものだ。

十 園児にスマートフォンを持たせ、緊急時に自分で外部と通話する。スマートフォンを使いこなせない園児には、位置情報で居場所が分かるようにす

る。入退園時に、園児の居場所をチェックすることもいい。あるいは温度センサー機能をスマホにもたせ、一定時間の高温を検知したら、警報を自動発信する。バスに乗っている間だけ、温度センサー機能に特化した「ポケットベル」的なものを持たせ、降りるときに回収する。

考えれば、いくつもの対策案が出てくるものだろう。一つだけでなく、複合的な対策であつてもいい。

私は、ドアや窓を開けておくという方法が気に入っている。夜はともかく日中にドアを開けておくことは、バスの中が高温になるのを防ぐ意味もある。

⑦ 死刑判決を受けた政治犯ボーズマン

【毎日新聞朝刊 2022/8/5 金言】

第二次大戦後、人権を普遍的価値とする考えが広まり、政治的理由では死刑にしない流れが生まれた。

国連総会で、ある死刑執行を止めるよう採択した決議だ。国際社会は「政治犯の命を奪ってはならない」との意見で一致した。南アフリカの人権隔離政策下、反政府活動家の一人マンゲナ・ボーズマン、1985年職場放棄の呼びかけに従わなかった黒人女性教師を、

首にタイヤを巻き、火をつけて殺害した。」

政治犯を死刑にしないという考えには、賛成するが、そのきつかけとなったマンガナ・ボーズマンの場合、国連がこぞって死刑に反対したという話に、首を傾げたい。その死刑の理由を、私はもつともだと思っただ。

彼は、その話によると、黒人女性教師に対しての残虐行為を働いたから死刑判決を受けたからで、政治犯だからという理由で、死刑判決を受けたわけではない。殺人罪の死刑囚が、政治犯でもあったわけだ。

「政治犯だから、死刑にするな」と主張するのは、筋が違っただろう。

職場放棄の呼びかけに従わなかった黒人女性教師に対しての残虐行為が、政治的理由だったから、と理解すればいいのかもしれない。大義があれば、残虐行為をしていい、という話になってしまふ。理由によっては、情状酌量の余地があるけれど、それが重罪を減刑すべき理由だろうか。

首にタイヤを巻き、火をつけて殺害したというやり方が残忍すぎる。そんな非人道的な残虐行為は、極刑に値するというべきだろう。死刑判決を受けたのは、

それなりの理由だろう。

殺害した理由について、「職場放棄に従わなかったから」というものでは、正当性に乏しい。職場放棄しなかったことに対する罰則だとしても、やりすぎだろう。女性教師を男たちが力づくで、縛りつけ、火をつけたなど、人道的に許されることではない。「見せしめのために粛清した」とも言えるだろう。自分の指示に従わなかったことに対する、腹いせ行為とも考えられる。マンガナ・ボーズマンが独断で行った不当なりんちだろう。彼女を罰するにしても、裁判にかけるなり、統制委員会にかけるなりして、正当な手続きをしなければならぬはずだ。

女性には、教師としての責務があった。子どもたちに教育するという使命感を持っていたはずだ。子どもたちのための仕事であり、単に政府にやとわれて仕事をしていただけではなく、教育の重要性を認識していたと考えられる。

教師の職場放棄など、政府にとって痛くも痒くもないことだろう。交通機関や産業界のゼネストのように社会や市民生活に影響を与えるものではない。教師が放棄すれば、その分、給料を払わなくてすむから、うれしくらいだ。給料の減額は、女性自身には痛手に

なることだったかもしれない。それより、自分が反政府のために職場放棄をして、子供たちの教育の機会が失われたなら、大きい損失だ。それによって子供たちの学力が落ちてしまったら、誰が責任を取るのか。彼女には職場を守る責任があった、と考えるべきだろう。

仲間であるはずの一人の女性に残酷なことをして見せしめても、反政府活動がうまくいくはずがない。彼には、一人の女性を説きさせるだけの信条も理念もなかった。暴力的な力を持っていただけだろう。

結局、政府に捕らえられ、殺人犯として死刑囚になったわけだ。

⑧ 「悪魔の詩」著者が刺された

【毎日新聞夕刊 2022/8/13 総合】

イスラム教の預言者ムハンマドを描いた小説「悪魔の詩」で知られる作家のサルマン・ラシュディ氏（75）が、12日ニューヨーク州で講演イベント中に男に襲われた。】

【毎日新聞朝刊 2022/8/14 社会】

NYで講演の時、「悪魔の詩」著者ラシュディ氏が壇

上で刺された。壇上に駆け上がった容疑者ハデイ・マタール（24）は、10〜15回にわたり殴ったり刺したりした。20秒ほど続き、ラシュディ氏は血まみれで床に倒れたという。イベントの司会者も頭部に軽傷を負った。91年には翻訳した五十嵐一氏が何者かに殺害された。】

【毎日新聞夕刊 2022/8/15 総合】

ラシュディ氏の回復に「長い時間がかかりそう」当初装着していた人工呼吸器を外され、会話もできるようになった。殺人未遂などの疑いで追訴されたハデイ・マタール容疑者の動機について捜査を継続している。

「ハリポッター」シリーズの作者J・K・ローリングさんがオンラインで脅迫を受けたとして捜査を開始。ローリングさんはラシュディ氏が襲撃された事件を非難した後、「恐ろしいニュース、とても気分が悪い」とツイートしたことで、ラシュディ氏の回復を願った。この投稿に対し「心配するな。次はお前だ」との書き込みがあったという。】

【毎日新聞夕刊 2022/8/16 総合】

ラシュディ氏襲撃でイランは関与を否定。イラン外務省報道官は事件について、ラシュディ氏が著作で「イ

スラム教の神聖さを侮辱し、人々の怒りに身をさらした」

1989年「悪魔の詩」がイスラム教を侮辱しているとし、イスラムの最高指導者だった故ホメイニ氏から死刑を宣告された経緯がある。」

イスラムの暗殺者たちに命を狙われているというのに、その本人がこのこと公の場に出てきてはダメだろう。あまりにも自覚がなさすぎる。命を狙われているという危機意識がない。講演の主催者にしても、それは想定外だったようだ。ラシュデイ氏が壇上で若い男に刺されまくっていたのに、すぐに止めに入ることもしなかつたわけだろう。

小説「悪魔の詩」を書いたサルマン・ラシュデイ氏本人だけでなく、91年には翻訳した五十嵐一氏が何者かに殺害された。翻訳しただけで、命が狙われたわけだろう。J・K・ローリングさんも、この事件を非難したら「心配するな。次はお前だ」と書かれてしまった。

第一に、ムハンマドをモデルにした小説に「悪魔の詩」というおどろしい題名を付けたのがよくない。その題名だけで、イスラムを冒瀆ぼうとくしていると思われるだ

ろう。侮辱あるいは冒瀆しているかどうかは私には判断できないが、イスラム世界では、はつきり冒瀆の書と断じられた。メディアでは、ムハンマドの妻を売春婦として描いたことが冒瀆の第一に挙げられているが、それは史実なんだろうか。それが想像であっても、妻のことであり、本人を卑下したわけではない。

ともあれ、イスラムを信仰している人にとって「悪魔の詩」は挑発的過ぎたのだろう。

ムハンマドに関して、近年、欧米の新聞が諷刺画を載せたことでも、ひと悶着もふた悶着もあった。諷刺画などわらって済ませればいいことだし、小説「悪魔の詩」にしても、創作だから、読者は真実とは考えない。歴史的人物をどう表現しようと、読む側は寛容であつてほしいと思うのだが……。本気で怒るのは、おとなげない。

著者は、イスラムを敵に回したのだから、それなりの覚悟が必要だったし、自分の主張を押し通すなら、外敵を避け、妨害を受けないようにしなくてはいけなかった。演台でやすやすとナイフでめつた刺しにされたのでは、大いなる挫折だ。著作が否定されたことになる。文学的にも敗北だろう。ペンよりナイフが強かったことになる。イスラムの勝利として、容疑者のハ

デイ・マタールは、彼の祖国では英雄扱いされるかもしれない。

著者は、あくまでも身を安全のところにおいて活動しなければならなかった。これで、ムハンマドの悪口わるぐちをもう書けなくなったにちがいない。

⑨ 試験をボイコットしなかった中学2年生

【毎日新聞朝刊 2022/9/20 女の気持ち 古谷あい子さん (71) 『中秋の名月』より一部抜粋

中学2年のとき、ある数学教師が「担当クラスだけをひいきする」といううわさが流れ、私のクラスで皆が試験をボイコットするという騒動が起きた。当時、あまのじゃくだった私はクラス全員一致の行動についてゆけず、1人で試験を受けた。行動をともにしなかったため、クラスの皆から、今でいういじめと問題視されそうな攻撃を数回受けた。まもなくそれもなくなった。】

教師が特定の生徒をひいきするのはよくあることかもしれない。この場合、教師の担当クラスをひいきしていたという。だれでも、ひいきされたいという気持ち

ちの裏返しで、ひいきされないことで、恨みがましく思う。そして、ひいきするのが不当だとする、いきどおりの正義感もわき出てくる。

担当クラスだけをひいきする数学教師に対するいやがらせ的な報復行為として、試験をボイコットする戦術を用いたわけだ。あるいは、彼らは試験が嫌いだつたから、ひいきしたとこじつけて、みんなで試験を受けなかったのかもしれない。一人がボイコットしようという時、これ幸いと、すぐに乗ってしまったか。

しかし、乗りの悪い生徒が一人いたわけだ。

数学教師は、ひいきしているという自覚はないだろうから、なぜこのクラスが試験をボイコットするのか、理解できなかつたかもしれない。

そもそも数学の場合、問題を解かせることが授業の主眼になりやすい。そのうち生徒たちは問題を解くことにうんざりしてることがあるだろう。「また試験？ いやだなあ」と思いつつ、試験問題に取り組むことになる。数学の問題を解くことが好きな生徒がいるだろうけれど、むしろ特異な部類にはいるだろう。

同じ服装をして同じ行動をする――日本が得意とする集団行動だろう。それに違反してはならないという圧力がかかっている。同調圧力だ。自主的な判断が抑

圧されるけれど、皆と一緒に行動していれば安心安全というメリットがあるし、それに違反するのは、裏切り者と後ろ指をさされる。皆から非難の目で見られることになっている。

先生に指示された試験を受けるか、受けないかに、迷った生徒もいたことだろう。ボイコットの根拠になっている「担当クラスだけをひいきしている」は、うわさであり、事実でないかもしれないと疑問を持つ。実際にひいきしていたとしても、たまたま担当クラスに数学好きが多くいたせいで、先生も熱心に教え、クラス成績がよかっただけかもしれない。

結局は、クラスの大多数は一部の者に扇動されて、ボイコットすることになったが、古谷あい子さんはその流れに自分が乗っていいものかどうか、考えたのだろう。「担当クラスだけをひいきしている」という理由にしても、うわさのレベルであり、怪しい。デマかもしれない。ボイコットする前に、「ひいきしないでください！」などと教師に申し入れを行うべきかもしれない。考えれば考えるほど、ボイコットする正当性や、必要性が怪しくなってくる。どうでもいいような理由だ。

古谷あい子さんは、一人で試験を受けた。彼女は、

同調圧力を感じなかったのかもしれない。ボイコットに同調しなかったことで、クラス内部から、特にボイコットを扇動した者から攻撃されるという危険性に気づいていなかったのかもしれない。「この裏切り者め！」と思われてしまう危険性だ。やはり一時的に「それがあつた」と記述している。最悪の場合、クラス全員からシカトされ、敵扱いされることがあり得る。そうなれば、彼女はクラスにいたたまれなくなつたかもしれない。

この場合、古谷あい子さんが正しかったと、クラスメートたちも（ボイコットする必要なかった）と、気づいたようだ。

⑩ 都の時短営業要請に従わなかった飲食店

【毎日新聞朝刊 2022/5/17 一面、社会】

東京地裁判決、時短営業の協力要請に従わなかった飲食チェーンに、都が時短命令を出したのは違法と認定した。「(店に) 不利益処分を課してもやむを得ない」と言える程度の個別の事情があつたとは認められない」とした。私権を制限する理由を認めなかった。発令する合理的な説明がなされていないと指摘した。た

だ、都の対応に過失があったとまでは言えないとして賠償を命じなかった。

原告側の長谷川耕造社長「時短営業に正当な理由がないことがはっきりした」

都庁では困惑が広がる。】

東京地裁が公共の利益より私権の重要性を認めたと、面白い判決だ。この場合の公共の利益とは、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐというものだが、それが裁判所に疑問視されたから、公権力を持つ都のメンツがつぶれた形なのだ。

時短営業要請は、飲食店を狙い撃ちしたとして、一部の店で不満や批判があった。営業妨害的な要請だろう。そんな店では、要請を受けて協力金などを受け取っても、採算が合わなかったのだろう。利用客たちからも、不平不満が出てよいのだが、世論（都民）としては、しかたがないとして、あきらめムードだったようにみえる。飲食店で感染しやすいという思い込みがあつて、もともと客足が少なくなっていたから、一部の店にとって時短営業はちょうどよかった面がある。都の関係者は「都の協力要請に他の飲食店が従っているのだから、お前の店も従え！」とでも思っている

のだ。要請に従わなければ、協力金を出さない。そんな協力金をかけて、ある飲食店チェーンがそれに従わなかった。それに対し、都は切り札として命令レベルで強制しようとしたわけだ。命令に背けば、さらに営業許可取り消しなどの強い措置も用意する。

飲食店が時短営業に従えば、どれほど対策効果があるのか、数値で示さなくてはいけなかったようだ。東京地裁で、都はそれを示すことができなかったわけだ。

たぶん効果があるだろうでは、ダメなのだ。飲食店が時短営業すれば、コロナ対策の緊急性が自覚されるだろうというような精神論では、頭の固い裁判官には納得されない。

協力要請に従う店が多い中で、ごくわずかな少数派の、従わない店に時短命令を出したところで、大勢は変わらないだろう。しかし、都としては、一つの例外も認めたくないのだ。むしろ協力金を支払わずに済むことだけれど「少数の店が要請に従わないなら、命令を出して意地でも従わせる」というやり方が、お上らしい。「要請」と言いながら、「命令」という宝刀をちらつかせている。

⑪ マスクをしなかった人たち

【毎日新聞朝刊 2021/7/26 社会】

ＩＯＣなどがコロナ対策をまとめたプレーブックは、競技中などを除き全関係者についてマスクを着けるよう定める。」

【読売新聞朝刊 2021/7/26 社会】

機内マスク拒否の元大学職員・奥野淳也被告（34）が釈放された。客室乗務員への暴行や暴言、臨時着陸させた威力業務妨害と傷害の罪で起訴されたが、拘留を大阪地裁が認めなかった。毎日新聞の取材に応じた。「私はマスク拒否おじさんなので、取調中も拘置場でもマスクをしなかった」】

【毎日新聞夕刊 2022/4/19 総合】

米フロリダ州の連邦地裁は、CDCによる公共交通機関でのマスク着用の義務付けについて、「違法」の判決を出した。」

【毎日新聞朝刊 2022/9/3 社会】

マスクをしない客を途中で、バス停でない路上に強制降車した静岡のバス会社に正当な理由でないとして行政処分。」

2020年12月、私は、新宿区にある大学の記念博物館で、アベノマスクをして観覧していたとき、鼻が出ていたらしく、係員から注意を受けたことがある。（アベノマスクの小ささを恨む）

2021年1月、「ボクはマスクをしない人だ」と意地を張っていた人がいたことに、私は注目した。なかなか学のある人なのに、航空機の離陸後の機内で、キャビンアテンダントに注意されたのに拒否したから大いにもめたわけだ。私としても、一人がマスクをしなかったとしても、感染の危険性が増すとは思えないことだが、航空機は空港に後戻りして、その危険人物を強制的に降ろした。

2022年の9月にも、バスの乗客がその運転手ともめたらしく、途中でバスから降ろされてしまった。運転手は「テメー、オレの言うことが聞けないのなら、バスを降りろ！」と言ったのかもしれない。この場合、バス会社側が悪いと判断され、行政処分をくらった。その乗客は、単にマスクを忘れただけだったかもしれない。

ささいなことでも、注意を受けるのはいやなものである。気分を害すほどである。特に、公共の場では、マスクを外したりすると、回ってきた警備の人に、注意

されることがある。注意されるのがいやだから、マスクをしている人が多くいると思う。

マスクには、感染者が空気中にウイルスをまき散らすのを防ぐ意味と、非感染車がその感染者から漏れ出て空気中に漂う飛沫を吸い込むのを防ぐ意味があるわけで、完璧には感染が防げないにしろ、それなりに効果があると期待できるものだろう。外に出るときだけマスクを着ければいいというものでもなく、家族のいる家においても、マスクは付けた方がいいのかもしれない。

街中で、マスクを忘れたらしく、ハンカチで口をおおってコソコソしている人を見かけたことがある。顔を隠すためにも、マスクは有効だろう。隠語で、マスクは「顔・パンツ」と言われることもあるらしい。マスクをしていないと、パンツをはいていない感覚だからという。

今般の第7波の感染者増加のペースを見ると、人々はマスクで「完全防備」しているはずなのに、万単位の新規感染者が出た。ピーク時には1日に約25万人が感染した。積算で2158万人（2022年10月10日現在）の感染者だ。どんな数値でも、もう驚かなくなっただけれど、それだけ感染したことは、マスク

やそれ以外の対策（3密を避ける、手指を消毒するなど）の効果に疑いが生じる。気休め的な効果だけだったということか。何回ワクチンを接種すればいいのか、という不信感も芽生える。

結果的に一人二人がマスクをしなくても、関係なかったと思えることだ。しかし、一人も例外を許さない、社会の潔癖さがある。少数派の例外者に対して不寛容なのだ。規制・規則・不文律というルールで、縛ってしまう。日本にいては仕方がないことか。

マスクを忘れて外出すると、まだ着用がほとんどだから、肩身が狭い世の中だ。ようやく、新型コロナウイルスの感染が下火になり、国際的にも、マスクの着用は不要とする動きで出ている。

2022年10月、日本でも「いつまでマスクをする必要があるのか？」という疑問の声が高まっている。マスクをしない人は、意外と先進的だったのかもしれない。

⑫ 奨学金を返えさない人たち

【毎日新聞朝刊 2022/5/11 総合】

政府「教育会議」が提言、奨学金返還に出世払い案。】

【毎日新聞朝刊 2022/5/20 社会】

奨学金、保証人過払い金返還で利息も上乘せ、札幌高裁が日本学生支援機構に支払うよう命じた。】

【毎日新聞朝刊 2022/6/4 社会】

日本学生支援機構が奨学金に関し、過払いさせた保証人2000人に数億円返還へ。保証人には連帯保証人を含めた人数で割った額しか返還義務はなかった。

【毎日新聞朝刊 2022/8/26 国際】

米バイデン政権が、学生ローン免除する。最大274万円、対象の約4300万人のうち2000万人は帳消しになる。

【毎日新聞朝刊 2022/9/22 社会】

奨学金返還、仕事や結婚に重し。NPO調査、「自己破産を検討」が1割。全体の28%は「延滞したことがある」

ある女性「奨学金は人生を大きく変えてしまうことがある。勉強するために借金をするなんておかしい」

失業したら、返還に行き詰まる。】

学費が高くなっているけれど、教育資金を借りやすく、あるいは貰いやすくなりつつある。昨今は大学への進学率が高くなっているから、借りる人が多くなっ

ているのだろう。借りられるから、昔のように、昼間働き、夜は2部制の学校に通うという苦学生は、少なくなっているわけだ。

奨学金の場合、返す必要のない補給型と、返す必要がある借金型がある。借金型にしても、利子は低く抑えられているはずで、銀行などで借りるよりは、まだろう。

その奨学金が返せないケースが問題となっている。

返せない人のために、国際的にも、米国で学生ローンの返済を大規模に免除してやろうとする動きがあった。奨学金の返済は、日本政府が示す案のように、出世払いという案は有力だろう。ただし、出世の定義が問題になるかもしれない。収入額で区切るのが妥当だろう。それで「あなたは返さなくてよい」と言われては、複雑な心境になりそうだ。「ボクって出世していないわけね。安月給だもんね」といじけたりして……。

借りた金を返さないと、非常に厳しい世の中だ。また、保証人として気安く判を押したケースで、のちに自分が借りてもいない金を返せ、と迫られる。これはかなり理不尽なことだ。保証人制度の過酷さだ。

卒業して就職したときに、地道に返済すればいいが、返済できなくなる事情が、ある確率で発生するものだ

ろう。昨今は就職先が非正規雇用の形態であることが多くなつてきており、収入面で安定しないし、ただでさえ生活に余裕がないことが多い。経済的な理由で結婚も遅れる。結婚したとしても、返済の負担は続くから、子どもを育てるどころではない。

本人が返せない場合、連帯保証人・保証人の出番となる。連帯保証人・保証人になる人は、親族・縁者の場合が多いと思うが、自分になんの過失もないのに、支払いを肩代わりしなければならぬのは、何とも解せないことだろう。自分に過失があつたとすれば、うかつに判を押ししたことぐらいだろう。

今回の判決で、日本学生支援機構は、返済のルールもろくに知らないで、取り立てていたことに驚く。ある保証人たちから多く取り立てていたことで裁判に訴えられ、判決を受けて初めて、それを知ったわけだ。

保証人を立てさせること（奨学金の場合、複数人が必要らしい）に、そもそも「やり方が厳しい」（やり方が汚いと表現したいところだが）というべきだ。保証人を立てずに、何とか借りられないものだろうか。学生が、あちこちの親類を回って、頭を下げて保証人になつてもらおうとする光景は、気の毒である。だい

たい、親がそれをやってくれるものかもしれない。

私の場合も、奨学金ではないけれど、学費の払い込み規約に関して、そうしてもらつた記憶がある。後で、親が都内に住んでいれば、その必要もなかったことがわかり、親にそうとう嫌味を言われた。私が思つていたように簡単には、保証人になつてもらえなかつたのだ。低く頭を下げて礼を尽くさなければならぬ。判を押してもらおう際、本人が「絶対、自分で返済します。あなたには決して迷惑をかけません」と決意表明する必要がある。

日本学生支援機構には、学生に貸し与えたら「必ず回収する。社会に出た元学生が返せないのなら、保証人からとつてやる！」という意気込みが感じられる。元学生が返せない事情など「知つたことか！」と突っぱねて、非情にも、保証人からふんだくるのだ。

ただし、少々の間、延滞は認めるようだ。そのときは利子をしっかりつけるのだろう。

元学生は、返還時期が来れば、保証人に迷惑をかけてはいけないから（すると当然、保証人との関係が確実に悪化する）、何とか奨学金を返そうとするが、もしも病气やけがをしたり、失業したりするなら、それも困難だ。中には、仕事についていけなくて、気難し

い先輩たちにとやされ、引き籠ってしまいう人もいるかもしれない。

20代は、ともかく貧しい。そんな中で、借金を返す余裕など一人もいないだろう。延滞すれば、取り立ての催促通知がやってくる。保証人の苦々しい顔つきが目には浮かぶ……。

その経験は、安易に借金してはいけないことを思い知るきっかけにはなる。

⑬ ゴーカー트가止まらずに観客にぶつかった

【読売新聞朝刊 2022/9/19 社会】

18日(日)午前11時ごろ、北海道・森町赤井川のリゾート施設「グリーンピア大沼」の駐車場で開かれていたゴーカー트의運転体験イベントで、小学6年の女児(11)が運転していたゴーカー트가、コースから外れ、見物客に衝突した。頭から血を流した男児(2)が意識不明の重体となつてゐるほか、4歳の男児2人がかすり傷を負つた。

女児は最大時速40キロで走行する高速コースに参加。事前にスタッフによる操作方法などの講習を行ったという。女児のゴーカー트는3分の運転体験を終え、ス

タッフがピットレーンに誘導してゐる最中だった。】

【毎日新聞朝刊 2022/9/20 社会】

リゾート施設「グリーンピア大沼」のイベント会場で走行中のゴーカー트가、順番待ちをしていた子供らに突つ込み、男児3人が病院に搬送された事故で、重体だった児童(2)が死亡した。事故を起こしたゴーカー트는最高時速50キロが出る仕様だった。】

【Go! KART! みんなが楽しめるモータースポーツ
ゴーカー트의ポータルサイトより(以下は抜粋)】

基本操作3…アクセルとブレーキの踏み方

ゴーカー트의アクセルとブレーキの操作はとっても単純。前に進みたいときはアクセルを踏んで、減速したり止まりたいときはブレーキを踏む。これだけ。

アクセルはクルマと同じで右足で操作をします。クルマもゴーカーとも同様、アクセルをたくさん踏めばスピードもどんどん加速していくので、慣れるまではアクセルを目一杯踏まずに、少し踏んで、また戻す、少し踏んでまた戻す。これを繰り返しましょう。

ブレーキペダルは、左足で踏み込みます。クルマのように右足で踏む事が出来ません。レンタルカー트의ブレーキペダルは左足で踏みます。ブレーキはペダルを軽く踏み込んだ程度だけでは効きません。ペダルを奥

まで踏み込むと減速するので、減速したいときや止まりたい時は、ブレーキペダルはしっかりと奥まで踏み込みましょう！

同時にアクセルとブレーキを踏むのはNG！

ゴーカートのブレーキを踏む時のポイントは、ブレーキ中はアクセルを踏まないこと！ブレーキを踏む時は、アクセルペダルを踏み込むのをやめてアクセルオフの状態にしてから、ブレーキを踏み込みましょう！】

このゴーカートは初心者用だったかもしれないが、それなりのスピードが体感できるものだろう。スタッフの話では、事故の時、女兒はアクセルを踏み続けていたという。なぜ女兒はゴーカートを止めなかったのか、という疑問が沸き上がる。ゴーカートの操作方法について、私はネットで調べてみた。前掲の記事の通り。

不幸な事故であり、リゾート施設に家族連れで来ていた人々には、青天の霹靂へきれきだったろう（ただし、当時雨模様だったという）。運転していた女兒には責任を負えないにしても、彼女には一生消えない心の傷が残りそうだ。

遺族に謝っても、謝りきれない。彼女は、遺族の悲

しみ、自分の親たちの苦悩を目の当たりにする。もう彼女は車を運転することさえできないだろう。北海道で、車がいくら必要であっても……。 「私の運転で、2歳児を殺してしまった」というトラウマが彼女の意識にこびりつく。

ホテルの駐車場に作られた、にわか作りのコースだから、飛び出し防止の策など、なかった。ゴーカートは直線のピットコースに入り、そのまま減速し、止まるはずだった。ピットコースの最終で、本線に出るための右カーブがある。女兒はゴーカートを止めもせず、右カーブに入りもせず、まっすぐ猛スピードで直進し、三角コーンなどをなぎ倒し、順番待ちしていた男児たちにはぶつかっただ。突っ込んでくるゴーカートをよけて身かわせたかもしれないが、2歳児ではそんな行動は無理だろう。

女兒はピットコースでゴーカートを止めるつもりだった。彼女はブレーキを踏んだ、と考えられる。しかし、ゴーカートは止まらなかった。「ん？ ブレーキが効かない！」

あわてて左足を突っ張って、ブレーキペダルを強く踏んだが、止まらなかった。原因として考えられるのは「アクセルを踏んでいたから」。ゴーカートは、ア

クセルを踏んでいては、ブレーキがよく効かない仕掛けだ。

この仕掛けは、おかしいと言わなければならない。

普通乗用車でも、アクセルとブレーキを同時に踏んだ場合の問題が近年明らかになって「ブレーキ優先」の思想が広まっている(たぶん)。つまり、ブレーキが踏まれたら、アクセルを無効にするという制御を車自身がするので。ゴーカートもそうしなければいけないだろう。技術的に難しいことではない。

「ブレーキを踏むとき、アクセルを戻しなさい」などと言葉でいくら言っても、ダメだろう。万人には徹底できないことが、今回の事故が証明している。

アクセルとブレーキを微妙に操作する競技用ならともかく、初心者にゴーカートを運転させるのなら、「ブレーキを踏んでいるときは、アクセルは効かない」仕様であるべきだ。

⑭ イギリス、トラス氏とスナク氏の党首選

【毎日新聞朝刊 2022/7/27 国際】

英国、保守党党首選、財政再建か減税実行か。

【毎日新聞夕刊 2022/7/28 国際】

英保守党選、スナク氏、対中強硬へ転換、「孔子学院

閉鎖」】

【毎日新聞朝刊 2022/9/6 一面、焦点】

イギリス保守党首にトラス氏。「私は減税と経済成長のために大胆な計画を実行し、エネルギー危機にも対処する」

トラス氏は当初はEU残留派だったが、後に強硬な離脱派に転じている。

【毎日新聞朝刊 2022/9/7 総合】

リズ・トラス首相が就任。保守党党首選、5日の決選投票でトラス氏8万1326票、スナク氏6万399票。約17万人の党員が投票した。

【毎日新聞朝刊 2022/9/9 記者の目】

大型減税主張のトラス英新首相、異常インフレ(7月10・1%)を乗り切れるか。対立候補も野党も財源案を強く批判。トラス氏は経済成長によって借金はいずれ返済できるとの考え。トラス氏の減税案を聞いたびに私は「気がよすぎる」気がして不安になった。

・トラス氏逆転勝利

内輪の閣僚の何人かにそっぽを向かれ、人望を失った前首相ジョンソン氏(7月に退陣表明した)に代わって首相を決めるための保守党の党首選が行われた。

約17万人の保守党員の投票によって党首が選ばれる。保守党は政権与党だから、その党首が首相になる。

イギリスでは、他のヨーロッパ諸国と同様に、防衛、経済（エネルギー不足、物価高、EU離脱による企業の撤退、低所得層の労働力不足など）の問題を抱えている。政権を握る与党に、どの政党がなっても、苦勞が絶えない。今、総選挙をすれば、政権交代してしまうといわれている。今の保守党から労働党に政権が移っても、状況がよくなりはないだろう。

さて、2022年7〜9月、イギリス保守党党首選は、トラス氏とスナク氏の対決になった。財政再建派のスナク氏と減税派のトラス氏だ。他にも候補者がいたけれど、2人に絞られた。当初スナク氏が優勢に展開し、本命視されたが、トラス氏が逆転したことが興味深い。

トラス氏は国民の声を反映した政策を打ち出し、「追い風を受けて」選挙戦に勝利した、という印象を持つ。国民の声が一番大きいのが減税の要望だったわけだ。選挙に勝つには、減税を叫べばよいということか。それだけではない。

・問題のテレビ討論

問題は二人のテレビ討論で、スナク氏が討論開始の

12分間に、トラス氏の発言を20回さえぎったことだといわれている。発言がさえぎられて、トラス氏はあからさまに顔をしかめた。(もううんざり)という表情も見せた。

相手の発言をさえぎるのは、たとえ相手が間違っていることを話していたとしても、無礼な行為であり、それを何回もやってしまったては、傲慢になる。議論の内容の可否よりも、態度が悪いことになる。

相手が話そうとしていることが予測できるとき、ついやってしまうものだろう。最後まで言わさない。

これをやられたら、言いたいことも言えなくなる。「最後まで聞けよ」と怒鳴りたくなる。「オレの言いたいことはだね……」と説明しようとしても、聞いてもらえない。

議論が盛り上がるどころか、互いに一步も引かない「口論」になってしまう。

相手の発言をさえぎったのは、相手が何をいいたいのか、発言を終える前に、もうわかっている。スナク氏としては、最後まで聞くまでもないことだったのだらう。

「そうじゃないんだ、こうなのだ」と説明しなかった。

スナク氏は弁が立つ人といわれているが、スナク氏の

言い分がいくら正論だとしても、相手の発言を最後まで言わせないのは、会話の礼儀に反する。

トラス氏は「直ちに減税」を公約する。経済対策として、年10%とされるインフレにあえぐ国民のために減税を約束する。国民に迎合するなら、減税というのが早道だろう。

また、「まずロシアを倒さなければならぬ」トラス氏は、ロシアのウクライナ侵攻について、意外と強硬な、タカ派的な考えを持った人だ。防衛費を、GDP比で2%のところを将来的に3%にすると豪語する。つまり1.5倍にしようとする。

・スナク氏の主な敗因

スナク氏は減税に躊躇した。歳入を減らすことであり、結局、それは国の借金を増やすことであるから、将来の国民に負担をかけること（借金を背負わせること）でもあるからだろう。政権与党なら、「国家財政を破綻させない」という強い見識を持つことが必要だろう。単純に減税を喜ぶ国民の前で、「安易に減税しない」という立場を取るのには、勇気の要ることだろう。

スナク氏の出自にも、得票が影響したかもしれない。彼は、インド系で、アフリカからの移民の家族に生まれたという。妻がインドの大富豪の娘で、スナク氏の

一家はアメリカに別荘を持つなど、裕福な暮らしをしていることがわかってくる。エリートで富豪、これは、アメリカならともかく（前大統領トランプ氏がそうだった）、イギリスではやつかまれる要因だろう。